

第 17 回白神山地世界遺産地域科学委員会 議事概要

開会挨拶
<p>環境省 小沢所長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月末に衆議院の環境委員会の国会議員が青森県津軽峠のブナ林を訪問されたが、台風で倒れる前のマザーツリーを見ていただけたのは良かった。 ・マザーツリーには、ヌメリツバタケモドキが生えており、既に傷みが進んでいることがうかがわれた。
委員長挨拶
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年是世界遺産指定 25 周年で、行事も多い。また、台風の被害でブナの倒木もあった。 ・本日の議題は、モニタリング計画の前年度実施状況及び今年度の実施状況、ニホンジカ問題、入山利用についてを予定している。
議題 1 資料 1-1~1-2 (モニタリングに関する報告) 資料説明
<p>【資料 1-1-1~1-1-4、1-2-1~1-2-3】について報告。</p>
議題 2 資料 2-1~2-5 (ニホンジカへの対応) 資料説明等
<p>【資料 2-1-1~2-1-2】について報告。</p>
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月14日の痕跡調査について、積雪は調べていないのか。
<p>環境省 西田保護官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べていない。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標高の低い条件のところでの積雪深は、白神山地全体として調査はやっていないのか。
<p>環境省 西田保護官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象観測装置を付けているのは3箇所だが、微地形の調査はやっていない。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深浦以外でも雪が少ないところで越冬している可能性はある。全部調べるのが大変であれば、気象条件や標高から推定できないかを検討しておいたほうが良い。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2箇所の DNA 分析でニホンジカと判定できたようだが、個体までは同定できていないのか。
<p>環境省 西田保護官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できていない。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば個体も同じかどうか、分かるといいのではないか。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者がその気になればできるのではないか。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ個体の識別もやってもらえるほうが良い。 ・秋田県側は伸びが抑えられてきた感じがするが、その理由はあるのか。

<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県側は植林が多いので、ニホンジカはどうしても青森県の海岸線側に寄っていくのではないかと。
<p>田中委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今はモニタリングをしている段階だが、メスが出てきたら繁殖が始まるのではないかと。将来的に想定されることや対策について専門家の意見を聞きたい。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策について説明をしていただきたい。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要なのは越冬場所がみえてきたということであり、越冬場所をどれだけ把握できるかが今後の対策の方向性を決める。ただし、早くしないと繁殖が始まってしまうので、早くたいたほうが良い。罾、銃器等、具体的な手法も含めて議論を始める必要がある。
<p>蒔田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越冬のときは1頭毎に違う場所にいるのか。何頭もまとまっていた可能性もあるのか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通繁殖期は固まっている。メスがいないということは、オスだけが集団で数頭いただけではないかと。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越冬地に何頭いたのかは分からないが、今後、数、密度が高くなれば、こういうところに冬の間かなりの数が集まると思う。
<p>蒔田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糞の場所は何頭いても同じところにするのか。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカは糞をする場所は気にしないので、多いところでは糞だらけになる。
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカは一時期減ったというが、一部残っていた場所からまた広がっているのではないかと。過去の経緯を踏まえて、白神ではどういったところがターゲットになっているのか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白神には17世紀にはシカはいた。200年ぶりに帰ってきたシカは、近世深浦周辺の海岸線で捕獲されている。なので、我々が対応するのも海岸線になるのではないかと。また、夏期の場合山岳に上がらないようにするにはどうしたらいいかということもある。
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪が多いので山のほうは難しい気がする。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬場には海岸線に下りるのでそこで勝負になるのではないかと。近世の人はシカが集まる時期にたっているのだから、海岸線でそれを行っているのではないかと。
<p>幸丸委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中島次長の疑問というのは、白神の世界遺産地域にシカが絶対いてはいけないのかどうかということ

<p>ことではないか。</p>
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> シカの糞塊調査などをして、一定の密度を超えたら周辺部でも捕っていいという議論になっているのか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ある程度の生息密度に下げるということは、絶滅するぐらいの勢いでやらないと無理だろうというのが、私と堀野先生の共通した意見である。少しでも気を緩めると爆発的に増えるのではないか。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでもそういう議論をしてきたが、どこで防ぐかという密度を決めるよりは、ほとんど入れないぐらいの対策でやるのがちょうどいいのではというのが科学委員会での見解になっている。しかし、まだ密度が低く、罠を仕掛けてもかからない。今回ようやく越冬地らしいところが見つかったので、これから対策が打てる可能性はある。
<p>蒔田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 中島次長の疑問はシカがいるのも自然の状態ということだと思うが、それはその時代に狩猟圧がかかっていたからであって、狩猟圧がない状態では早めに手を打たなければいけないのではないか。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔と今は人間による土地利用が違う。シカは人がいなければ平地で生活するが、今は人が平地を占有しているため軋轢が生じる。その結果、山に上ってしまうことがある。しかし、平地にシカが戻ってきてもいいということにはならない。南アルプスでも尾根まで上って高山植物がめちゃくちゃになっている。
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後もいろいろ教えていただきたい。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> イノシシが2件報告されているが、白神山地に雪解け後も上ってくるかどうか、分かる方がいれば。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> かなり広がっていると思われる。イノシシが白神山地にどれだけのインパクトを与えるかは分からない。穀倉地帯の標高の低い地域には被害が出始めるのではないか。この5年以内はかなりインパクトが出てくると思う。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> シカの越冬地も含めて周辺地域で戦わざるを得ないということか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> そうです。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化が進み、対馬暖流がますます暖くなると、冬の偏西風が相対的に冷たくなり、雪が増えるのではないか。雪が増えたり、ブナ、ミズナラの分布が上に上がり、ナラ枯れ等が広がる

<p>という状況が考えられるのであれば、イノシシ、シカがどういう分布動向になるか、予測しておいたほうが良いと思う。</p>
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の傾向だと雪は減る。海岸沿いではここ 20 年ぐらい減っている。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県ではイノシシの分布拡大が見られ、県北まで全部分布域になっている。岩手県にイノシシ分布の標高に関する情報を求めるのも手だと思う。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県も 5 年ぐらいイノシシ対策に追われている。ニホンジカもたぶん対策に入れることになる。イノシシについては 2 年前から対策検討委員会を作っている。2005 年の初の目撃から、2007 年の捕獲までに 2 年かかった。15 年たって検討会ができた。秋田も同じスピードではないか。青森にももう入っているかもしれない。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林生態系を考えると、イノシシとシカでは影響が違う。白神山地のことだけ考えて防除策はできないので、イノシシも一緒にやっていかなければという気はする。
<p>檜垣委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・31 ページだが、海岸段丘の上のような感じがする。沢に近いところというのはどのぐらいの深さなのか。深い沢であれば海岸段丘を切る沢は多くないので、そういうところを調査するのはどうか。
<p>環境省 西田保護官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢は深くない。観測された地点は平地になっているところだ。
<p>檜垣委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢は水があるのか。
<p>環境省 西田保護官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬場は分からないが、水は流れている。
<p>檜垣委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸段丘で沢に水が流れている部分はあまり多くないので、そういうところを探していくという手もある。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢がどういう役割を果たしているかだ。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢より 1 段高いところだと思う。海岸線ならドローンを飛ばせば見つけられるのではないか。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度ニホンジカ対策の事業計画について、事務局から説明をお願いしたい。
<p>議題 2 資料 2-2~2-5 (ニホンジカへの対応について) 資料説明等</p>
<p>【資料 2-2-1~2-2-8、資料 2-3、資料 2-4】について報告。</p>
<p>堀野委員： <資料 2-5-1 の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤石川上流部で林床植物にニホンジカかカモシカか不明な食痕を確認した。津軽ダムから入った

<p>林道でも食痕が確認されたが、他の痕跡は発見されなかった。一部を DNA 検査したところ、ジャコウソウからカモシカの DNA が検出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査結果から、白神山地の遺産地域内ではニホンジカの数少なく、カモシカのほうが多いのではないかと考えられた。 ・今回の調査では、食痕が古い結果が出ないもの多くて残念であった。越冬地を見つけるのが目標となっているので、来年度以降の調査では、足跡や糞も発見しやすい残雪の時期にやったほうが良いのではないかと。
<p>田口委員： <資料 2-5-2 の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪がないと証拠がつかみにくい。雪があれば足跡の周辺で痕跡を探し証拠を挙げることもできるが、登山道周辺を歩いてランダムに探しても見つかるものではない。ほとんどがカモシカの単独行動のように見えた。4月下旬～5月上旬の残雪がある時じゃないと確認、痕跡はつかみにくいのではないかと。
<p>【参考資料】 <プレスリリース> (早池峰山周辺地域) について報告。</p>
<p>幸丸委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発信機付きの首輪が時間がきて落ちるのは機能的なものなのか、シカ保護のため一定期間が過ぎると落ちるのか。
<p>林野庁 添谷課長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両方ある。
<p>幸丸委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲して発信機を付ける労力が大変なので、個体の保護はあまり考えなくていいのではないかと。
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首輪の電池が切れてしまうので、それに合わせて落下するようになっている。
<p>幸丸委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカの場合、首輪の耐用年数が切れるまで付けておいていいのではないかと。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北森林管理局の報告の 63 ページ、早池峰連峰の主脈尾根と思うが、0.0 というのは糞粒がなかったということか。64 ページの同じ図では赤い斜線が主脈尾根に入っているが、糞はないけれど下に行って糞をしているということはないか。
<p>林野庁 島内部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけられなかった。調査方法でこうした結果になったということだと思う。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糞だと調査誤差があるので当てにならない。食痕だけでは密度が出ない。どうやって密度を出すか。赤外線センサーやセンサーカメラは付けているのか。
<p>林野庁 島内部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県で付けているが、風が強く倒れているので苦労している。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカがいないところで対策をやってもしょうがないが、実際はいるが糞がないということが不安だ。

<ul style="list-style-type: none"> ・林道除雪の時期はいつなのか。
<p>林野庁 島内部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪が降り始めたら。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11～12月か。除雪してもまだ上にいるシカを。
<p>林野庁 島内部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そんなに上ではない。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカが下がってきたところか。時期については分かった。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱罟や囲い罟の餌は何を置いているのか。
<p>能代市 後藤主事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌のことは聞いていないので分からない。
<p>林野庁 加賀調整官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北森林管理局でもやっているが、乾燥わら、ヘイキューブ、ユクルを置いている。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌の誘引効率の比較では、鉾塩、米で作ったもの、ヘイキューブが効いたということだ。錯誤捕獲を防ぐため餌付けの餌はどういうのがいいのか。また、実際にやっているのかお聞きしたい。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉾塩はシカが越冬した後に塩分を欲しがると、誘引力が高まると聞いている。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋に下りてくる時は、塩は誘引しないと思う。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに餌を考えていけば、捕獲割合は上げられるのではないか。 ・ロシアやアメリカではハイハットなどを配置して、高い位置から狩猟者に撃ってもらう形を取っている。岩手県は下に撃ち下ろす形で撃つということ呼び掛けていると思う。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その文献によると、網に入ったシカや寄ってきたシカは一斉に全滅させないといけない、逃げて教えるというが、他にどうやって教えるのか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートディアだ。北海道の西興部の場合、協会の人に乗っている車の音を聞くだけで動く。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その音を覚えているのか。毎回車や服を変えないといけないのか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・覚えていると思う。シカを見つけたら自分の姿が見えにくくなる藪の中から撃つといい。捕獲率が上がるのは夕方になる。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカは出産期や角を伸ばす時期なので、春先にミネラル分を強く欲しがると。

<ul style="list-style-type: none"> ・スマートディアをつくるということは非常に気を付けないといけないというのが、業界の常識になっている。
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知床ではスマートディア対策をしていた。 ・由井先生がおっしゃった、シカが教えるかどうかという話だが、まとまっているときに1頭が逃げると他もつられて逃げてしまう。その結果、他のしかも学習することになる。堀野先生がおっしゃったスマートディア対策はとても大変。スマートディアになることを気にせずに林道を除雪してハンターを誘導することなどは心配である。
<p>林野庁 島内部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンターにやってもらうので、そこまでは言えない。
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートディアをつくるのは警戒する必要があると思う。全部を殺すことができなければその群れは放っておくというやり方を知床ではしている。知床では、スマートディア対策で餌付けをするときは同じ人が同じ格好をし、鐘を鳴らすなどして餌付けしている。撃つときも同じ格好でやり群れを確実に根絶する。根絶できない場合は手出ししない。これは効果的な方法だった。 ・2014年に環境省が全国のシカの分布について出していたと思うが、青森県と秋田県はほとんどいないということでデータを出していなかった。今度青森県で計画を作るが、密度や捕獲など県全域でのデータは作られていないのか。もしあるとしたら、白神でどのくらいまで高密度の分布が白神に近寄ってきたか客観的に分かんと思うが。次回にでも出してもらえないか。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既に出しているのではないか。密度は年を追ってどんどん密になっている。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北東北全体の各県の地図をつなぎ合わせたものが出ていた。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の会議では自動撮影カメラで撮影された哺乳類や鳥の場所、地区別一括表があったと思うが、あれがあると参考になる。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物相のモニタリングの時にデータを出していた。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動撮影カメラでも同様なものが欲しい。シカとカモシカの両方のメッシュでの動きを知りたい。カメラによる撮影数のデータを出してもらいたいのだが。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労力的に大変だと聞いている。ほとんどのところはシカだけを識別してデータを付けている。
<p>由井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動判別できないか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間が全部やらなければいけない。

<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういう研究が始まったことは聞いているが、どういう成果が出たかは分からない。
<p>林野庁 加賀調整官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類調査のセンサーカメラの結果について、次回の科学委員会で識別できた部分について取りまとめて出したい。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深浦町の囲い罠について、越冬候補地と場所的な関係はどうなっているのか。林野庁のように、密度が高いところや越冬候補地に集中的にかけるのがいいかと思う。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年前、カメラトラップの数を増やしてほしいとお願いした結果、かける場所が増えてデータを取るのに人手が足りなくなった。今は市町村合わせて300台以上が設置されているので、相当人手がかかっていると思う。ある程度の段階にきたらポイントを絞る置き方はないのか。あるいはランダムなやり方なのか。
<p>堀野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の個別事情によるのではないか。一般的には分からない。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回越冬地らしきところが少し分かってきた。ただ、もう少しみないとシフトは難しいのではないか。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越冬地が分かれば、ドローンを飛ばすのはどうか。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連するが、環境省がやっている録音機を用いた咆哮調査というのは、位置を特定できるのか。
<p>環境省 西田保護官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な位置は特定できない。核心地域のモニタリングが手薄なので、そこを広域的に見る調査として録音機を用いるのを検討している。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越冬地候補地のようなところにそういうものを設置するのはいいかと思う。
<p>環境省 西田保護官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は検証実験も兼ねて核心地域に何台かと、カメラで撮影されている場所にも何台か付けて、その録音機で解析できるかといった検証も同時にやりたい。
<p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越冬地らしきところに試験的にドローンを飛ばしてはどうか。
<p>環境省 中島次長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年環境省でドローンを買ったので、できるかもしれない。
<p>林野庁 島内部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国有林は飛ばしやすいが、民地は許可をもらったほうがいいのではないか。
<p>中静委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・候補地が出てきたら対策も考えていくことができるようになったと思う。

幸丸委員

- ・早池峰のシカ対策について戦略はどうなっているのか。

林野庁 島内部長

- ・早池峰山は固有種もあり被害が分かりやすい。地元の保護団体や県の自然保護課でここを守るべきだという答えが出ていて、ネットをかけたところの4箇所は守っている。捕るほうをどうするかだ。銃が使えないところでは誘引捕獲で囲い罠を用いたり、除雪をしたり、里で捕って、守るべきところはピンポイントで守る。
- ・白神はブナ林で、シカが食べたかどうか被害がよく分からない。ピンポイントで分かればネットを張ることも可能である。
- ・農業対策と併せてシカの捕獲を考えていかなければならないと思う。

田中委員

- ・植生モニタリング調査に同行したが、今年は結構ブナの実がなっている。落下種子数はここ10年以上凶作だ。ただし、今年は7月に高温が続いたので、種子がどのくらい虫害を受けるか、データに注目したい。

中静委員長

- ・越冬候補地が見つかるということもあるので、対策を先に進めることを考えていただきたい。

議題3 資料3-1～2（入山利用への対応） 説明

【資料3-1】について報告。

檜垣委員

- ・昨年の崩山の入山者数が増えたのは登山道を整備したからか。

環境省 西田保護官

- ・理由については分からない。

檜垣委員

- ・十二湖観光の来訪者が増加している影響か、外国人が来ているということもあるのかと思う。

【資料3-2-1～3-2-7】について報告。

由井委員

- ・津軽ダムに水陸両用車があり、年間1万3,000人利用しているが、その客とバスツアーの客と連携を取り、バスの運行時刻に合わせて津軽峠まで案内するのはどうか。ただし、希少種の生息場所には案内しないように注意していただく。

田口委員

- ・遺産地域に精通した人材育成ということだが、地域の人たちと白神山地とのつながりが断たれているので、地域の生活の歴史に密着した人材は育たないのではないか。25周年に当たって地域の人たちとの協力をどこまで真剣に考えていくか、地域の人たちにとって白神とは何かを考えていかなければならないのではないか。つまり地域の人たちを味方に付けなければ、持続的な保全はできないと思う。

蒔田委員

- ・藤里町で、地域の人にとって白神がどういう意味があるか、どう利用するかというシンポジウムが開かれていた。地域の活性化の中でその自然をどうするかという意識はあるのではないか。

田口委員

- ・その辺を進めていきたいと思う。遭難が起きたとき、地元の猟友会など地域の自然を知る人がいると捜索隊はすぐに動くが、地域の人が地域を知らない人で占められると、支えられなくなっていく。白神に詳しい青森、秋田の地域の人たちを育てていくシステムをつくっていかなければならない。経験知を有した実践可能な動ける人材が必要である。

檜垣委員

- ・弘前大学の白神履修証明プログラムについて、2年間社会人来ていただくというプログラムを作り、インタープリターを育てているが、期間が長いため最初の2年間は7人修了者がいたが、今は3人しか来ていない。プログラムを短くすることも考えていかなければいけないかと考えている。
- ・西目屋村の遺産センターがあるところに津軽ダムの倉庫があるが、そこを借りて標本を置いている。それをいかに活用するか、村との連携も考えようと思っている。

幸丸委員

- ・世界遺産になる前は、周辺の人たちは白神にあまり関心がなかった。白神の価値を学び直して、自分たちの白神というのを新たに構築していくことが大事なのではないか。

中静委員長

- ・白神山世界遺産を地域としてどういうふうにご利用していくかというのは非常に重要な問題だ。シカの問題も地域と協力していかなければできないことがたくさんあるので、この問題は長期的に考えていかなければならない。

幸丸委員

- ・入山利用者の統計を見ると落ちている感じはするが、説明を見ると保全対策との関係で利用促進がどうのということが書いてある。白神の周辺効果と切り離して示してもらいたい。

田口委員

- ・世界遺産候補で動きがあるが、ああいうものと一緒に白神も見てもらえるきっかけになるといいと思う。新しい白神の見せ方を工夫する必要がある。

中静委員長

- ・今出た意見というのは長期的に考えていかなければならない問題なので、これからどういうふうにするか考えたほうがいいかもしれない。

蒔田委員

- ・議論の途中ではあるが、遺産地域の核心部分を含めて体験している人が増えることは必要ではないか。

環境省 小沢所長

- ・地域理解のためにはガイドだけではなく、地元の小・中学生、高校生にも知ってもらいたい。そういうアプローチは議論されてきたのか。

蒔田委員

- ・藤里町の学校は白神体験のコースなどは持っていると思う。核心地域には入っていないが、どういふふうなところを小・中学生に提供したらいいかという議論はされていない。

中静委員長

- ・ 25 周年に向けて科学委員会主催で何かやっても良かったと思う。

議題 4 資料 4-1 事務局説明

【資料 4-1】について報告。

由井委員

- ・ ここ数年白神山地でクマゲラ情報がないが、この 1 年で情報があれば教えてもらいたい。

環境省 西田保護官

- ・ 環境省で今年調査を予定していたが実施できなかったなので、来年度調査を検討したい。

由井委員

- ・ 場所は秘密にして情報だけ集めるシステムにしてほしい。

閉会